

火を投ずるために

ルカ 12 : 49



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年8月14日
聖霊降臨後第10主日

今日の福音書は不思議な言葉で始まっていました。異様な、
と言ってもいいかもしれません。

**「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が
既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」ルカ 12:49**

この言葉には、何かイエスさまの激しい思いが込められている
ようです。その思いにいくらかでも近づきたいと願います。

地上に火が投じられた話が創世記にあります。アブラハムの
時代、悪に満ちたソドムとゴモラの町を、神は硫黄の火を投じ
て滅ぼされた、と伝えられています。これは今日への警告にな
ります。けれども、イエスが、審判の火を投じて地上を滅ぼす
ために来られた、と理解することはできません。

ルカ福音書にはこんな話があります。一行があるサマリア人
の村に入ったとき、村人たちはイエスを歓迎しませんでした。
腹を立てた弟子のヤコブとヨハネはイエスにこう言いました。

**「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼ
しましょうか」9:54**

イエスは二人を叱られました。滅ぼすことがイエスの目的で
はないのです。

また同じルカ福音書の徴税人ザアカイの話の結びで、イエス
はこう言われています。「人の子は、失われたものを捜して救う
ために来たのである。」19:10

この世と人を滅ぼすためではなく救うためにイエスは来られた。とすればイエスが地上に投げようとする火は、たとえ厳しいものであったとしても、滅ぼす火ではなく、人を生かす火に違いありません。

ここで先に2つ目の文に注意を向けてみましょう。イエスは言われます。

「その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」

イエスは切に願っておられます。その火が既に燃えていたらと……。

人々の間で、わたしたちの間で、何の火が燃えていることをイエスは願われるのでしょうか。三つを思います。

第一は信仰の火です。信仰の火が燃えていてほしい。神を信じる信仰の火が燃えていてほしい、とイエスは願われます。信仰が弱れば、わたしたちの命も弱り、道を失ってしまいます。

第二は愛の火です。愛の火が燃えていてほしい。神への愛が、主イエスへの愛が、そして隣人への愛が燃えていてほしい。愛から、言葉と行動が生まれてほしい。また、わたしたちのほうから愛するということだけではなく、神がわたしたちを愛してくださる愛がわたしたちの心に燃えているように。

第三は正義の火です。この世界には、神が願われない偽りや不義不正がある。それによって弱い立場の人々が苦しめられている。それをイエスは嘆かれました。イエスは、当時の社会で大きな力を持っていたファリサイ派の人々にこう言われました。

「あなたたちは不幸だ。^{はっか}薄荷や^{うんこう}芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしている。これこそ行うべきことである」ルカ 11:42

正義を行う情熱の火が人々の間に燃えてほしい、とイエスは願われたのです。

信仰の火、愛の火、正義の火。

「その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」

そしてイエスはそれを願われただけではありません。その火を燃やし、その火を投げようとされるのです。それはわたしたちを清める火、情熱を燃やす火、聖霊の火です。

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。」

主イエスはわたしたちの中に、聖霊の火を投じられるのです。

主イエスさま、あなたが投じられる聖霊の火によって、わたしたちを清めてください。聖霊の火によってわたしたちを信仰と愛に燃える者とし、正しいことを行う者としてください。アーメン